

令和6年度 福生市立学校 学校評価書総括表

令和6年3月1日

	学校自己評価総括	改善策	学校関係者評価総括	改善策	総括評価
福生第三中学校	<b>学力向上</b> ○生徒による授業アンケート①「学ぶ楽しさを感じる授業」肯定的評価82% ②「分かる授業」肯定的評価85%である。 ○外部講師を招聘した校内研修が充実し各教員の授業改善につながった。成果の肯定評価は生徒84%、保護者75%である。 ○一人1台端末を活用した授業への意識は高くなっている。	<b>学力向上</b> ○福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業やICTを活用した授業研究に取り組む。 ○系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で内容を編成し、自己実現ために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる。	<CS委員からの指摘内容> ○授業を参観した感想は、話し合い形式の授業が多く見られるなど、教員の工夫が感じられる。多くの生徒が落ち着いて授業を受けていて安心できる。 ○教師が一方向的に教え、生徒がそれを聞くだけの授業ではなく、生徒同士が相談したり、教え合ったりしている授業が増えつつあるように思う。授業形態の変化を強く感じた。	全体として学校の教育活動、課題解決の方向については一定の評価を得ていると考える。 その上で以下の3点を課題として、次年度に取り組んでいく。 ○地域の理解や協力を得て、総がかりで子供を育てる風土の醸成を図る。	本年度の評価を受けて以下の点を重視し学校運営に取り組んでいきたい。 1 キャリア教育の充実 系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で内容を編成し、自己実現ために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる。また、発達に応じた支援を充実させるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立に取り組む。 2 授業力向上 福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に全教員で取り組む。 3 健全育成の推進 生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験や教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行うことで自尊感情を高め、失敗を恐れずに新しいことにも積極的にチャレンジできる生徒の育成を図る。また、校訓【礼節】を掲げ、社会的自立に向けての基礎として捉え「凡事徹底」をモットーに基本的な生活態度や生活習慣の育成を組織として粘り強く丁寧に行う。
	<b>健全育成</b> ○どのアンケート項目も生徒、保護者ともに肯定評価が80%以上であり、「いじめは絶対にいけない」は生徒の100%が肯定評価であり、「良さを認めてくれている」は生徒の91%、保護者の87%が肯定評価であった。安全安心で認められる環境づくりが、自尊感情や自己肯定感を高めることにつながっている。 ○体力向上については三者ともに低い肯定評価となっており、教職員の意識を高め、指導の充実を図っていく必要がある。 ○キャリア教育に関しては教員の肯定評価が100%であるが、生徒は84%、保護者は79%の肯定評価であり、ガイダンス等も含めて、より系統立てたキャリア教育の充実をはかる必要性がある。	<b>健全育成</b> ○生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験や教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行うことで自尊感情を高める。 ○「安心安全で認められる学校(魅力ある学校)」を目指し、いじめ、不登校生徒の発生を減少につなげる。 ○体力テスト等の分析により、全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、計画的・継続的・組織的に推進していく。 ○キャリア教育に関してはガイダンス等も含めて、より系統立てたキャリア教育の充実を推進する。	○地域行事「総合防災訓練」や「四地区合同水防災訓練」「富士見公園の清掃」「七五三挨拶運動」等、地域での三中生への期待度が高まってきている。防災意識の向上という点においてもその貢献度が高く、特に地域の高齢者からの評価も今年も高かった。与えられた仕事を笑顔で取り組む生徒の姿に、CS委員も多くのエネルギーをもらうことができた。	○CS委員会を核とした活動(「学校環境美化」「地域人材活用(地域の方に学ぶ講座)」「地域防災・安全指導」「健全育成(挨拶運動等)」)など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。 ○CS委員会のメンバーを中心に地域人材の発掘を行う。	4 体力向上 体力テスト等の分析により、全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、計画的・継続的・組織的に推進していく。
	<b>学校運営</b> ○教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、緊密な連携のもとに教育活動を進めることができた。今後も職場風土を大切にしていく。 ○教職員の特別支援教育の理解を深めることができた。今後は校内支援委員会をさらに機能させていく必要がある。	<b>学校運営</b> ○教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、心理的安全性を確保し、個々の強みを生かし、組織として協働し、教育活動を進める。 ○教職員の特別支援教育の理解を深めることができた。今後は校内支援委員会をさらに機能させていく。	○道徳授業地区公開講座において、深く考えさせる工夫や発問の工夫も感じられた。また、授業後の意見交換会も現在の社会のモラルや道徳性について学校、保護者、地域で考え、共有できたことはよい取り組みであった。	○CS委員会のメンバーを中心に地域人材の発掘を行う。	5 学校組織としての教育力の向上 教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、心理的安全性を確保し、個々の強みを生かし、組織として協働し、教育活動を進める。校内支援委員会もさらに機能させていく。また、学校としての方針や考え方を明確にして、情報発信を通して教職員・生徒・保護者・地域が考え方や情報の共有を図ることができるようにする。
	<b>特色のある学校づくり</b> ○体育祭、音楽会は教職員、生徒、保護者ともに80%以上の肯定評価となっており、今後もより達成感や自尊感情、帰属意識の醸成を図れるようにしていく。 ○「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」など地域を巻き込んだ、生徒が主体となって活躍できる場を多く設定することができ、達成感を得ることができた。 ○CS委員会は年間6回開催でき、具体的な活動も充実し、地域貢献・ボランティア精神の涵養につながった。CS委員会を持続可能な組織とするための人材の確保が今後の課題である。	<b>特色のある学校づくり</b> ○地域の理解や協力を得て、総がかりで子供を育てる風土の醸成を図る。 ○CS委員会を核とした活動(「学校環境美化」「地域人材活用(地域の方に学ぶ講座)」「地域防災・安全指導」「健全育成(挨拶運動等)」)など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。 ○CS委員会のメンバーを中心に地域人材の発掘を行う。	○CS委員会の活動の持続可能性についても考えていく必要がある。	6 地域総がかりで子供を育てる風土の醸成 CS委員会を核とした活動(「学校環境美化」「地域人材活用(地域の方に学ぶ講座)」「地域防災・安全指導」「健全育成(挨拶運動等)」)のさらなる充実に向けて企画・実践していくとともに地域人材の発掘を行う。	